

2015 年度阿部県政・県議選

報告書

(2015年3月20日～22日調査)

I	調査の設計	1
II	調査のポイント	3
III	調査の概要	4



一般社団法人 長野県世論調査協会

Tel 026-233-3616 Fax 026-233-3610

<http://www.nagano-yoron.or.jp>

I 調査の設計

◆調査の目的

統一地方選前半の県議選は4月3日告示、12日投開票の日程で行われる。4年に1度、県議の役割が県民に問われる機会だ。

昨年夏に再選を果たした阿部守一知事は、「確かな暮らしが営まれる美しい信州」の実現を目指して2015年度の県政に臨む。

地方創生の具体的施策が焦点になる新年度を前に、県政の両輪である知事と県議会の課題について、県民の関心や意識を探る。

◆調査の設計

▽調査対象	県内に住む20歳以上の男女800人
▽抽出方法	県内を東北中南の4地区に分け、さらに20代～70歳以上の6つの年代層・性に分割し“県下の有権者の縮図”となるように人数を比例配分して、各市・各郡の対象者数を設定。
▽調査方法	個別電話聞き取り・RDD(ランダム・デジット・ダイヤリング)法で実施。コンピューターで無作為に発生させてかける電話調査法で、電話帳に番号を載せていない人も調査できる。無作為に発生させた番号のうち、設定した年代・性の人を選び、目標の800人に達するまで抽出して聞き取りを行った。
▽調査地点	19市9町6村
▽調査時期	2015年3月20日～22日
▽有効回答	818人(男性 388人 女性 430人)

<注>

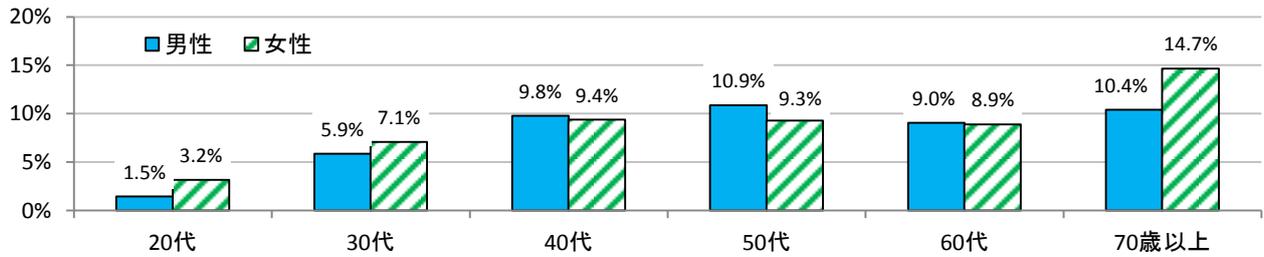
①報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入。合計が100にならない場合がある。

②見出しのパーセント数字は原則として小数点以下を四捨五入した。

◆サンプルの内訳

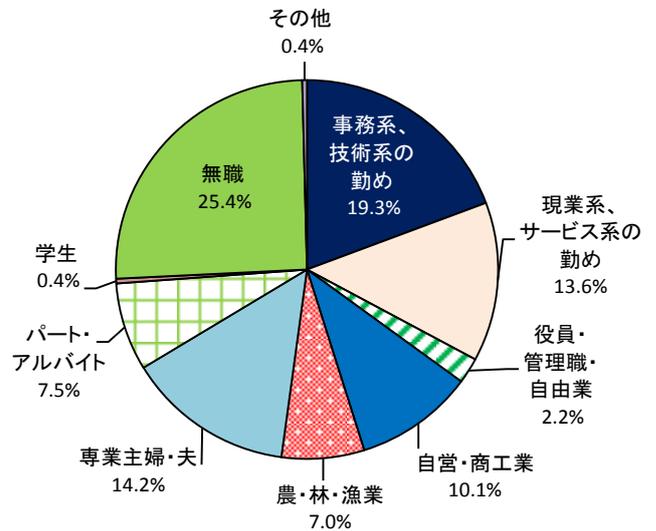
【性別と年代】

	合計	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
全体	818	38	106	157	165	147	205
	100.0%	4.6%	13.0%	19.2%	20.2%	18.0%	25.1%
男性	388	12	48	80	89	74	85
	47.4%	1.5%	5.9%	9.8%	10.9%	9.0%	10.4%
女性	430	26	58	77	76	73	120
	52.6%	3.2%	7.1%	9.4%	9.3%	8.9%	14.7%



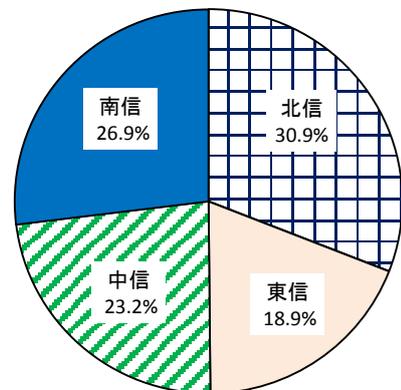
【職業】

事務系、技術系の勤め	158	19.3%
現業系、サービス系の勤め	111	13.6%
役員・管理職・自由業	18	2.2%
自営・商工業	83	10.1%
農・林・漁業	57	7.0%
専業主婦・夫	116	14.2%
パート・アルバイト	61	7.5%
学生	3	0.4%
無職	208	25.4%
その他	3	0.4%



【地域】

北信	253	30.9%
東信	155	18.9%
中信	190	23.2%
南信	220	26.9%

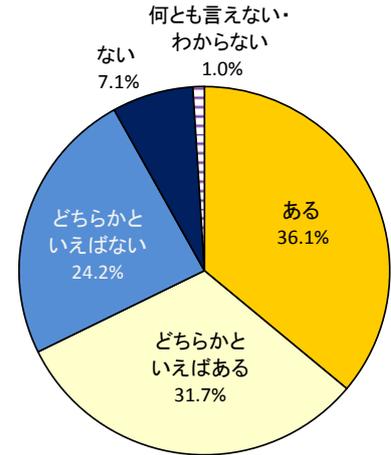


II 調査のポイント

◆県議選への関心「ある」67.8%

4月3日告示、12日投開票の日程で行われる県議選について関心が「ある」36.1%、「どちらかといえばある」31.7%を合わせ、67.8%が関心を持っている。ただ全体で3人に1人、20代～30代の4割以上は関心が「ない」と答えており、低下傾向が続いている投票率が気がかりだ。

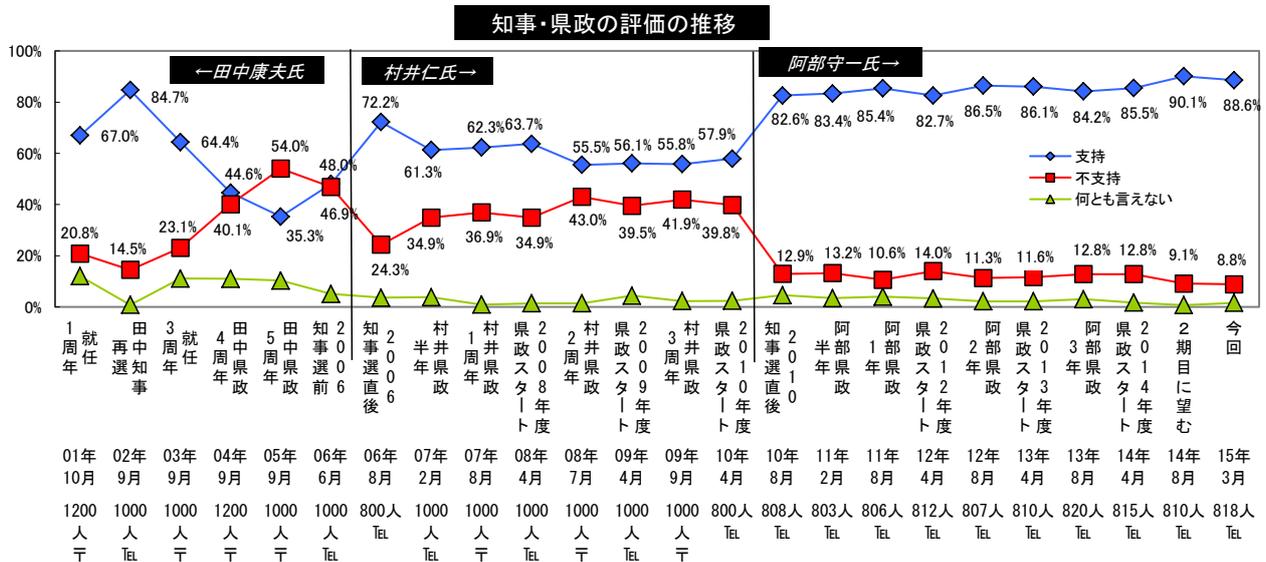
また県議の定数については、「減らした方がよい」が半数近い46.9%だった。



◆阿部知事の支持率 88.6%

2015年度の県政に臨む阿部知事の支持率は「支持する」46.8%、「どちらかといえば支持する」41.8%を合わせ88.6%と高率を続けている。昨年8月、再選直後の調査90.1%よりは微減だが、積極的な「支持する」が「どちらかといえば支持する」を初めて上回った。

一方県内の経済や暮らし向きに「活気がない」と思っている県民は、いぜん過半数に上り、地方創生に期待と課題が見える。



<注>田中県政当時は「なんともいえない」を郵送調査(干)のみ選択肢として明示

	01年10月	02年9月	03年9月	04年9月	05年9月	06年6月	06年8月	07年2月	07年8月	08年4月	08年7月	09年4月	09年9月	10年4月	10年8月	11年2月	11年8月	12年4月	12年8月	13年4月	13年8月	14年4月	14年8月	今回
支持する	36.6%	50.5%	29.7%	15.1%	11.6%	14.1%	35.9%	20.6%	19.6%	22.4%	17.8%	15.9%	16.0%	26.1%	40.5%	39.7%	35.5%	27.5%	32.2%	35.7%	41.0%	37.8%	43.8%	46.8%
どちらかといえば支持する	30.4%	34.2%	34.7%	29.5%	23.7%	33.9%	36.3%	40.7%	42.7%	41.3%	37.7%	40.2%	39.8%	31.8%	42.1%	43.7%	49.9%	55.2%	54.3%	50.4%	43.2%	47.7%	46.3%	41.8%
どちらかといえば支持しない	10.1%	8.0%	11.4%	17.5%	18.0%	25.9%	14.0%	24.6%	24.9%	24.6%	30.7%	28.7%	28.7%	21.3%	8.4%	9.3%	7.9%	10.6%	8.2%	9.1%	8.9%	9.0%	6.4%	6.5%
支持しない	10.7%	6.5%	11.7%	22.6%	36.0%	21.0%	10.3%	10.3%	12.0%	10.3%	12.3%	10.8%	13.2%	18.5%	4.5%	3.9%	2.7%	3.4%	3.1%	2.5%	3.9%	3.8%	2.7%	2.3%
なんともいえない・わからない	12.0%	0.8%	11.1%	11.0%	10.3%	5.1%	3.6%	3.8%	0.9%	1.4%	1.4%	4.4%	2.3%	2.4%	4.6%	3.4%	4.0%	3.3%	2.2%	2.3%	3.0%	1.7%	0.7%	2.6%
不明	0.2%	-	1.3%	4.3%	0.4%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

Ⅲ 調査の概要

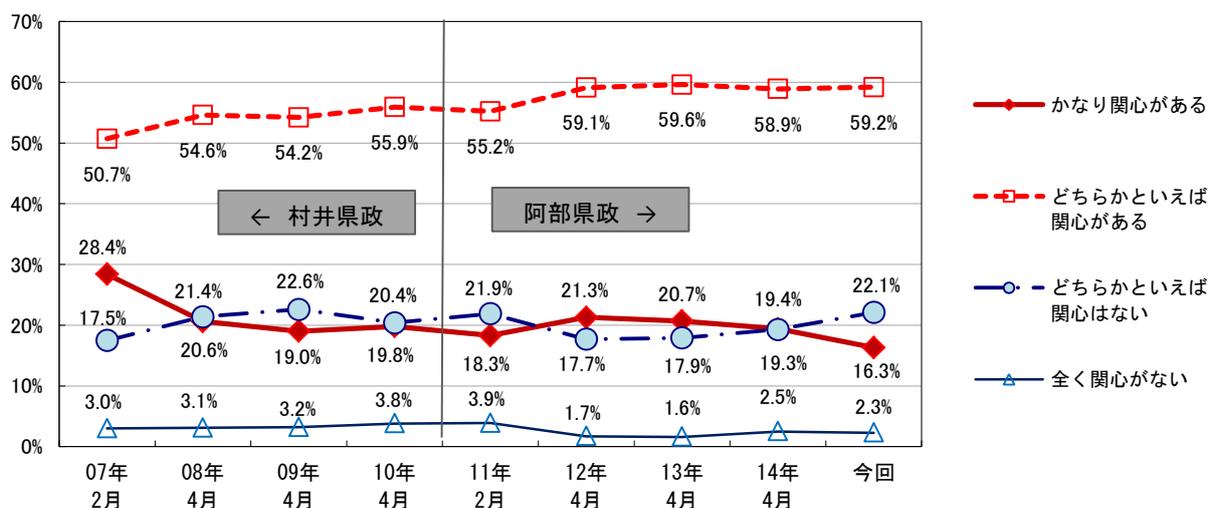
県政への関心

(問1)

◆「関心がある」76%

長野県政への関心は「かなりある」16.3%、「どちらかといえばある」59.2%を合わせ「ある」が75.5%。「かなりある」は微減傾向だが、全体では阿部県政になって70%以上を維持している。年代別では60代が85.1%と最も高い。

「関心がない」のは20代(42.1%)、30代(31.1%)の若い年代、地域では南信(27.7%)が他との比較で多い。



長野県経済や暮らし向きの現状

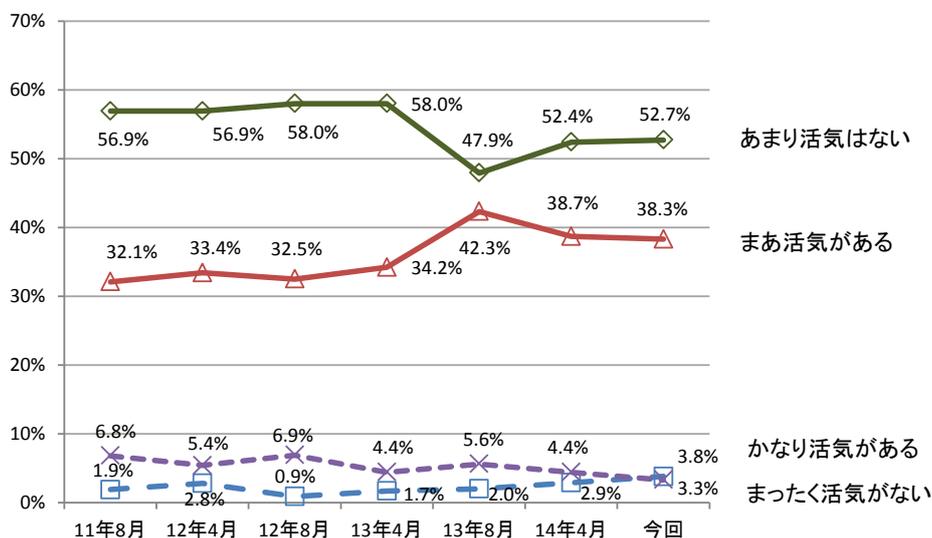
(問2)

◆「活気がある」は1年前と同レベルの42%

県内の経済や暮らし向きについて継続して聞いているが、「活気がある」と思っている人は全体で42.1%、昨年4月の調査と同じレベルだ。「活気はない」と答えた人がいぜん過半数の56.0%に上り、

国のアベノミクスと県の経済対策の効果が実感として表れていないように見える。

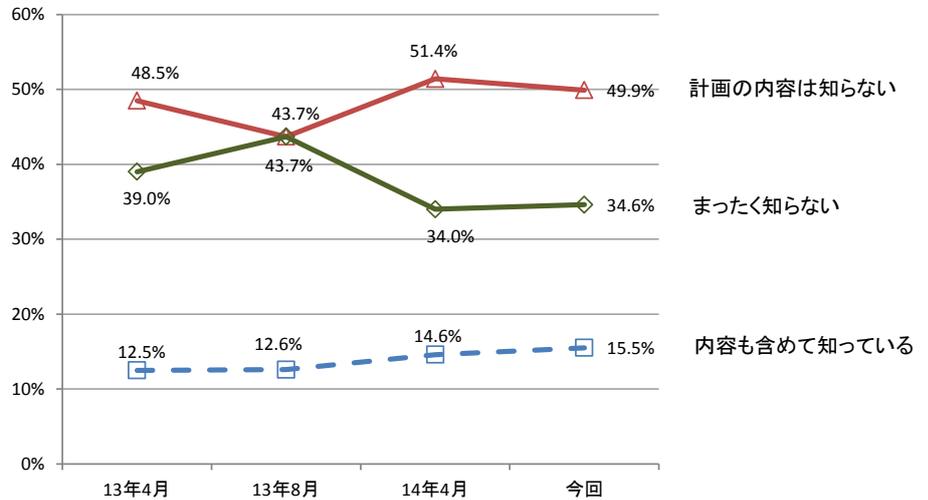
「活気がある」は地域別で、南信のみ4割に届かない。職業別では「自営・商工業」が32.5%で一番低い。



◆県総合5か年計画「内容も知っている」16%

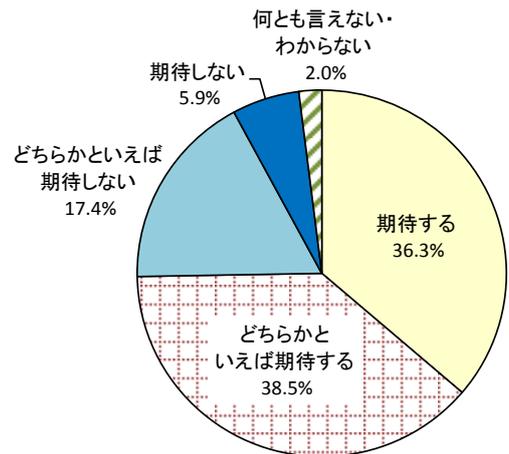
「確かな暮らしが営まれる美しい信州」を目標に、阿部県政が2013年度からスタートさせ2年が経過した「長野県総合5か年計画」(しあわせ信州創造プラン)の認知度は「内容も含めて知っている」15.5%、「計画の内容は知らない」49.9%、「まったく知らない」34.6%と、昨年の調査とあまり変化はない。

年代別で「まったく知らない」が20代57.9%、30代43.4%と若い年代に浸透していないのも同様だ。



◆地方創生の戦略に75%が期待感

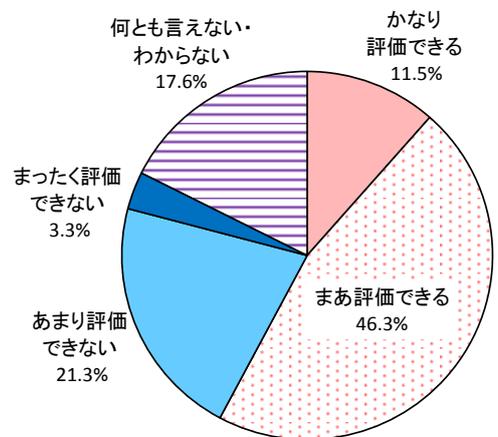
県が新年度、地方創生に向けて「長野県人口定着・確かな暮らしの実現総合戦略」を策定することに期待感を持っているのは全体で74.8%に上る。特に積極的に「期待する」が4割以上と高いのは60代以上、職業では専業主婦、役員・管理職・自由業、農・林・漁業、地域では南信だ。



◆副知事に2氏起用、58%が評価

阿部知事が副知事に太田寛・総務部長と環境省出身の中島恵理・上智大学大学院准教授を起用したことを、「かなり評価できる」11.5%、「まあ評価できる」46.3%を合わせ57.8%が評価している。「評価できる」は年代、職業、地域を問わず半数を超えている。

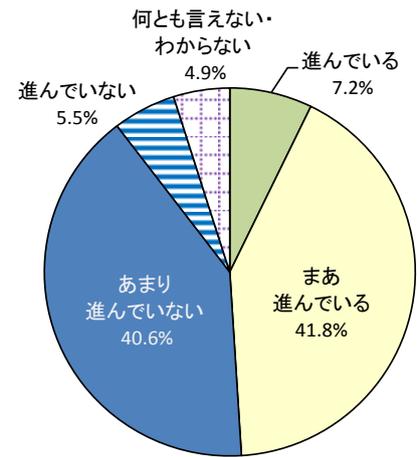
「評価できない」は全体で24.6%、「何とも言えない・わからない」が17.6%。



◆北陸新幹線金沢延伸、県の観光対策に評価二分

北陸新幹線長野—金沢間が14日開業、県などが県内5駅で年間80万人の観光客増加（2012年比）を目標としている対策についてどう思うか尋ねた。観光対策が「進んでいる」7.2%、「まあ進んでいる」41.8%、「あまり進んでいない」40.6%、「進んでいない」5.5%と評価は二分された形だ。

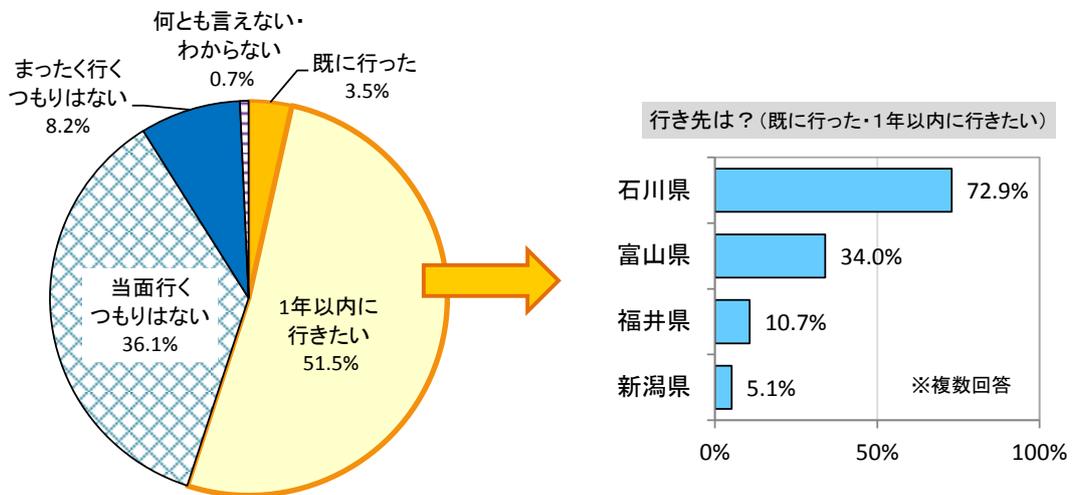
地域別でも対策が「進んでいる」と思っているのは、東信（51.0%）と北信（53.7%）、中信（53.7%）で半数をやや超えたものの、ルートから遠い南信は4割以下となっている。



◆新幹線で北陸方面へ「行きたい」55%

北陸新幹線に乗って北陸・上越方面へ行きたいか、開業1週間で聞いたところ、「既に行った」3.5%、「1年以内に行きたい」51.5%と半数以上が意欲を示している。「行きたい」意向がルート沿線の東信69.7%、北信が66.8%で高いのは当然として、乗車駅のない中信（46.4%）と南信（38.6%）でも一定の数字を示した。

年代が高いほど乗車意欲も高い傾向で、70歳以上は6割を超える。



◆行き先は石川県が7割超

「行った」「1年以内に行きたい」と答えた人に聞いた行き先（複数選択）は、石川県が断然多い72.9%、次いで富山県34.0%、福井県10.7%の順番だった。

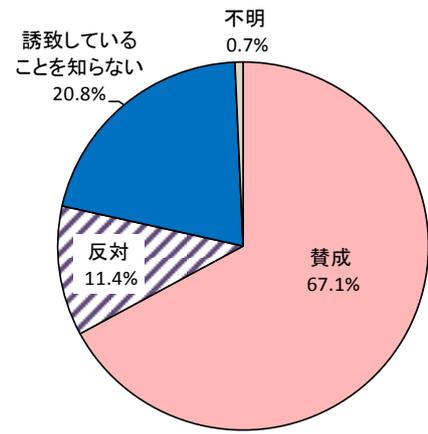
属性別で見ても似た傾向だが、自営・商工業や現業系・サービス系の職業、南信は富山県人気も4割を超え高めだ。

◆サミットの軽井沢誘致に賛成 67%

県や経済団体などが2016年サミット（主要国首脳会議）の開催場所として、軽井沢町誘致に名乗りを挙げていることに「賛成」が67.1%と、「反対」の11.4%を大きく上回った。

「賛成」は女性より男性、職業では役員・管理職・自由業、農・林・漁業、地域では北信が高い。

ただ「誘致していることを知らない」が2割いる。

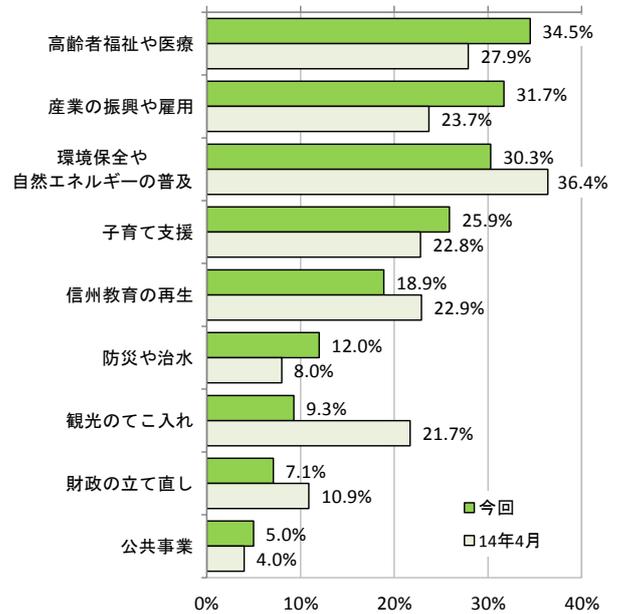


評価している阿部知事の政策 (問4)

◆「高齢者福祉や医療」がトップの35%

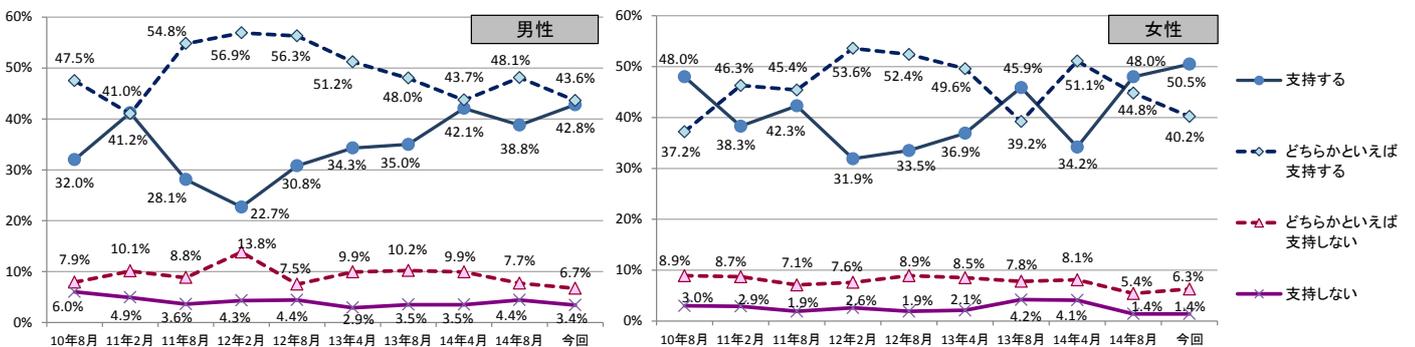
阿部県政で評価している政策（3つ以内選択）は「高齢者福祉や医療」34.5%、「産業の振興や雇用」31.7%、「環境保全や自然エネルギーの普及」30.3%がトップ3項目。前回調査（昨年4月）で1位だった「環境保全や自然エネルギーの普及」が3位と、順番は入れ替わったものの3項目は共通である。

「子育て支援」は全体では4番目だが、30代は最も高い41.5%、40代が2番目の33.1%と対象年代からは高めの評価を得ている。



阿部知事の支持率 (問5)

◆女性は2回連続9割超える



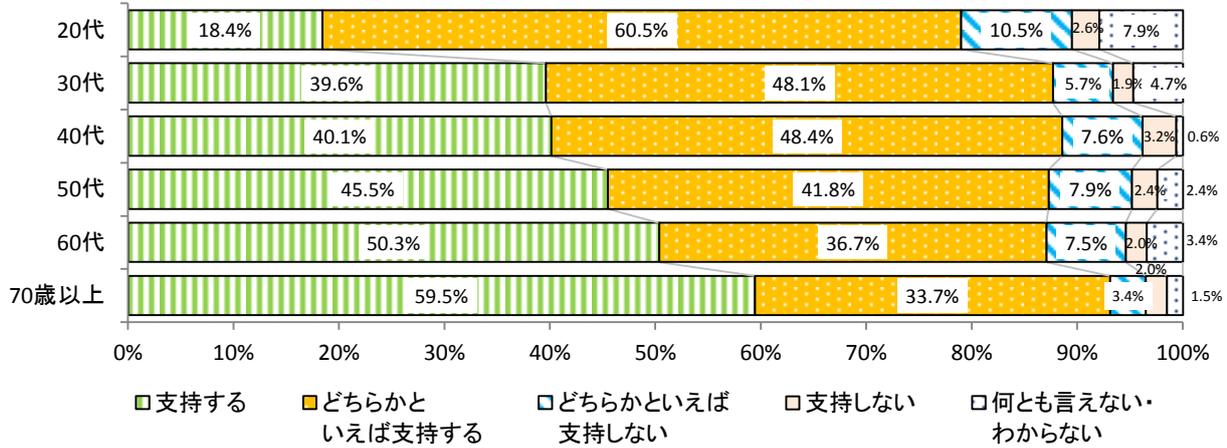
調査のポイントで示したように阿部知事の支持率は、全体で88.6%と高率で安定している。男性86.4%、女性90.7%で女性は前回調査（阿部知事2期目に望む）に続き9割台に乗り、専業主婦（主夫）に限れば94.0%に達する。支持率が80%を割ったのは20代（78.9%）

のみだ。

「支持しない」は合わせて8.8%、属性の中ではパート・アルバイトの16.4%が目につく。

共産党支持者も6割以上が支持しており、オール与党の色彩が一層強まった印象である。

◆年代別では



県議選への関心

(問6)

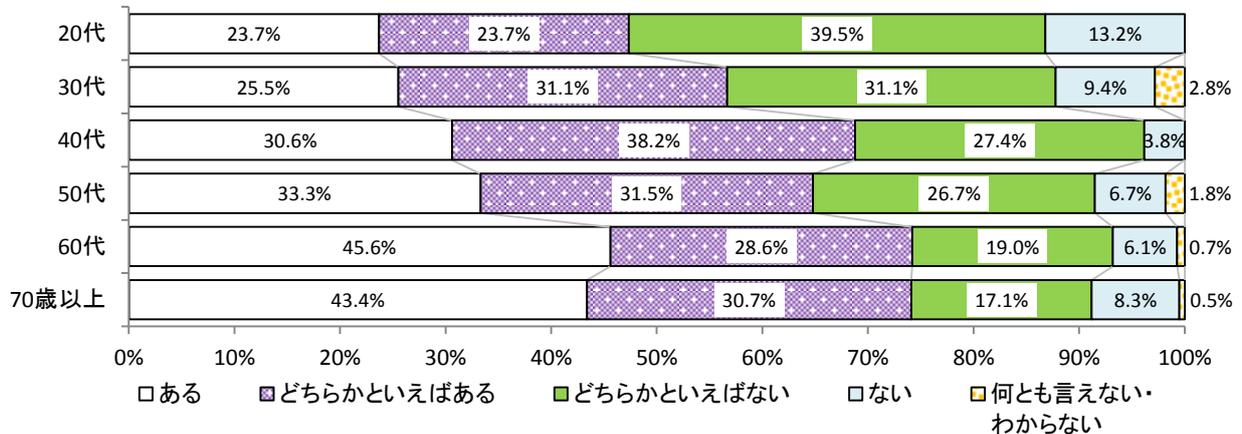
◆60代以上は「ある」が7割超

県議選への関心は「ある」が全体で67.8%と、「ない」の31.3%を36.5ポイント上回る。ただ年代間の差が大きく、関心が「ある」のは、60代以上の7割超に対し30代が5割台、20代は半数に満たない。地域別では関心が「ある」が、いずれも65%~70%余で大きな開きはない。

また支持政党が「ない」と答えた無党派層（調査対象者の56%）は、関心が「ある」が57.7%にとどまり、投票行動には気がかりな要素もある。

県議選の投票率は前回（2011年）54.19%、9回連続で最低記録を更新している。

◆年代別では



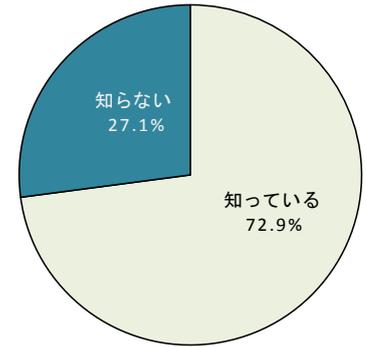
住んでいる選挙区から選出の県議

(問7)

◆「知っている」73%

県議選への関心に続き、住んでいる選挙区から選出されている県会議員を知っているか尋ねた。「知っている」72.9%、「知らない」が27.1%だが、これも関心度と似た傾向があり、60代以上は8割以上が「知っている」のに対し30代が5割台、20代は4割に届かない。

地域別では「知っている」が、いずれも7割を超えている。



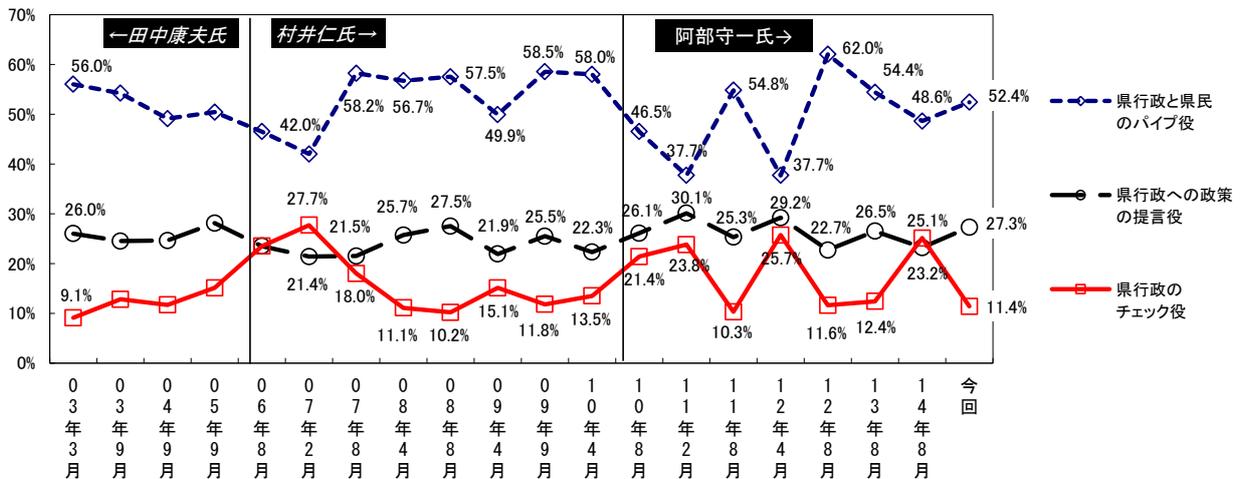
県議会の役割

(問8)

◆県政との「パイプ役」が5割超

阿部県政に対して期待する県議会の役割は「県行政や知事と県民のパイプ役」52.4%、「県行政や知事への、政策の提言役」27.3%、「県行政や知事のチェック役」11.4%で、昨年8月の調査（阿部知事2期目に望む）に比べ、「チェック役」が14ポイント減少した。

「チェック役」は4年前の県議選前調査（23.8%）と比べても、今回は12ポイント低い。



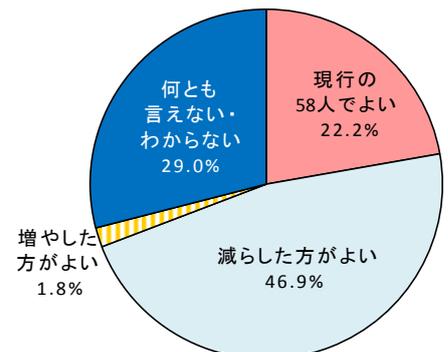
県議会の定数

(問9)

◆「減らした方がよい」47%

現在26選挙区で58人の県議会定数はどのくらいが望ましいと思うか4択で聞いた。「現行の58人でよい」22.2%、「減らした方がよい」46.9%、「増やした方がよい」1.8%、「何とも言えない・わからない」29.0%と、半数近くが定数減を望んでいる。

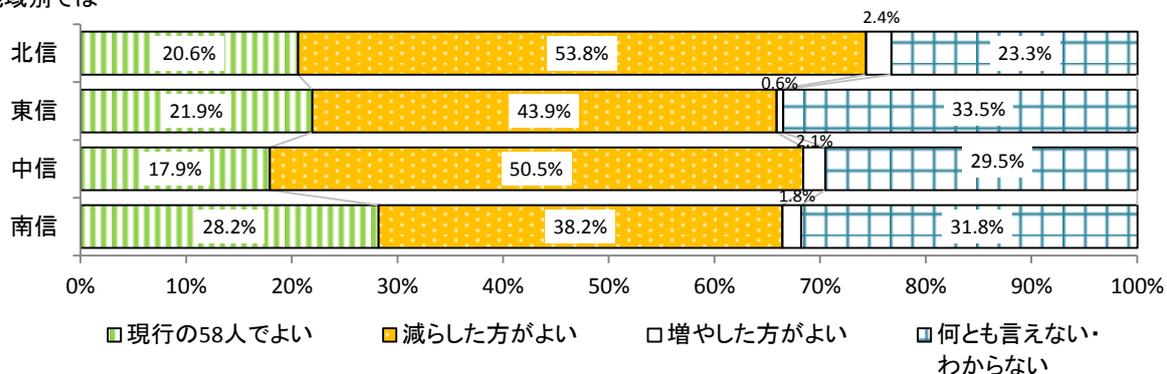
定数減を強く望んでいるのは役員・管理職・自由業



(72.2%)、自営・商工業 (60.2%) で、自ら経営に携わっている人たちだ。

南信は「現行の58人」支持が28.2%、「減らした方がよい」も38.2%と低めで、定数削減に他の3地域とは受け止めに違いがある。

◆地域別では



◆減らす定数は「6～10人」が4割

「減らした方がよい」と答えた384人に、何人くらいか数字で聞いた。5人刻みでまとめると「6～10人」が40.1%で一番多く、「16～20人」が14.1%、半減の「26～30人」は13.3%だった。属性別でも、ほぼ「6～10人」減が最も多い。

一方「増やした方がよい」と答えた15人のうち、半数が5人以上としている。

何人減らす？

